

式 辞

キャンパスの桜とアルプスの峰々が、青空に映え、希望に満ちた春になりました。本日ここに、四十一名の新入生を迎え、入学式を挙行できますことは、長野県南信工科短期大学校の大きな慶びでございます。

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。
保護者の皆様にも、心よりお祝いを申し上げます。

先ほど、専門課程の機械システム学科十七名、電気システム学科十七名、短期課程の機械科七名の入学を許可いたしました。南信工科短期大学校へのご入学を、心からお祝い申し上げますとともに、教職員一同、大いに歓迎いたします。

この三年間余りは、新型コロナ感染症禍で、勉強ばかりでなく、ご家族ともども日常生活自体においても、大変自由な時期を過ごされてきたことと拝察いたします。

本校の授業も多くの制約を受けました。本日の入学式も、ウイルスの感染拡大を防ぐために、この様に規模を小さく抑えざるを得ませんでした。

ご理解のほどをよろしくお願い申し上げます。

長野県南信工科短期大学校が、地域の皆様のご支援をいただき、大きな期待の下に、平成二十八年四月に開校いたしました。

本校設置の主な目的は、将来の「ものづくり産業」を担う「地域中核人材」の育成です。本校では、急速に進展する技術革新（イノベーション）に柔軟に対応できる専門知識と技能を兼ね備え、地域のリーダーとして積極的に活躍する実践技術者（ものづくりのスペシャリスト）を育成します。

本校のカリキュラムの特色は、「少人数教育」と「実験・実習」です。少人数教育で、基礎理論の習得から先端機器を活用した実験・実習を通じて、専門知識と技能を学びます。学生の皆さんの確かな技術者としての実力はこのカリキュラムをじっくりこなしてゆくことにより徐々に蓄えられてゆきます。

ところで、私自身は、職人という言葉が大変気に入っています。皆さんにも、職人氣質（かたぎ）、今日でいえば「技術者気質」という矜持を持った「実践技術者（ものづくりのスペシャリスト）」になっていただきたいと願っています。

ここで、職人氣質（かたぎ）にまつわるエピソードをひとつご紹介しましょう。皆さんは、「五角スッポン」という言葉をご存知でしょうか。

亀は六角だが、スッポンも亀と同じで六角ではないのかと思われた方も多いと思います。

この「五角スッポン」という言葉は私が学生時代に旋盤加工を教わった工作室の技官の方に教えていただきました。当時の機械加工のスキル(腕前)を測る一つの目安でなかったかと推察しています。

金属製の円筒に円柱を差し込むことを想像してください。ちようど、卒業証書を入れる円筒形のホルダーです。この筒の断面が円形ではなく、「正五角形」です。

または、ボルトとナットのネジが切つてある結合部が正五角形になるようなものを考えてみていただければと思います。

正五角形の角柱の作製はさほどではないかと思いますが、正五角形の筒を作り出すのは極めて困難です。

その理由は、正三角形、正四角形、そして正六角形などは定規とコンパスで割と簡単に描くことができますが、正五角形を描くことは一筋縄ではゆきません。

「五角スッポン」とは、旋盤とフライス盤を駆使し、最後にヤスリで仕上げて、五角柱が五角形の筒にすっぽりと収まる状態を示す言葉です。

この時、角度を変えて、お互いの接触面を入れ替えても「スッポン」と収まらなければなりません。それで、「五角スッポン」なのです。

正五角形の場合、中心から各頂点までを結ぶ線分同士の間角度は360度割る5で72度となります。現在は、NC旋盤やNCフライス盤が使えますので、正確にこの角度を

保って切削加工できるようになり、正五角形を作製することとは、少しは楽になってきたかと思えます。皆さんも腕に自信ができましたら、「五角スッポン」にもトライしてみてください。

電気技術についてのエピソードは、卒業式で皆さんにご紹介できることを楽しみにしています。

本校が設置されています上伊那は、中央と南の二つの日本アルプスの間に、天竜川が流れる豊かな台地が広がり、工業がとても盛んな地域です。高い技術を持つ企業や研究開発型企業が活発な活動を展開しています。

この自然に恵まれ、文化の香り高い「上伊那の地」で、ともに学び、科学技術の確かな実力を培い、実社会の舞台で活躍されることを強く期待しています。

そして何よりも、本校で「楽しい学生生活」を過ごすことができることを心より願い、私からの式辞といたします。

令和四年 四月十一日

長野県南信工科短期大学校長

武田 三男